
お母さん、ありがとう！！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お母さん、ありがとう！！

【Nコード】

N3628L

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

夜兔！仕事が一段落してから読んでくれい！

（前書き）

実在の河野夜兔とまったく関係ないとは言えない。

河野夜兎はくたただった。勤務先の工場で仕事がわんさかある。ないよりましだけど多すぎる。死ぬ。そのくせ賃下げ。無論、退社するつもりはない。退社しても社員雇用は今難しい。というだけではない。うちの製品を待っているお客様を裏切ることはできない。がんばるっきゃない。

とはいえ、パートのおばちゃんはおしゃべりばかりして真面目にやらぬし、リーダーはおばちゃんの攻撃が怖くて注意できない。女子の夜兎にばかり任せる。そして恨まれ工具箱を隠されたりする。小生か。

それでも本社のやつらはもつと腹立つ。紙や数字しか見やがらん。現場のことが何もわかつとらん。嫌みをぐちぐち言われる。殺したるか。あたしは社員として工場の人々を守らないといけない。みんなにはお世話になってるもの。しかし、部長のやつむかつくなあ。うちの若手を能なしだ役立たずだとバカにしおつて。それを教えるのがお前らだろう。モノ作りは後人に引き継いでやつと完成なんだ。アホバカ。と怒鳴ったら部長のやつわたふたしてたな。あとでリーダーがよくぞ言ったと飯をおごってくれた。あんたが言え。あんたが。

くつたくたになり家に帰ると、旦那の米太郎は小説を書くのに夢中だ。今、「小説家になろう」というサイトに投稿してる。読ませてもらったけど下ネタばかりでくそつまらん。それより就職活動せえ。教え子に迫ったのが発覚し前の塾を解雇されてからずっとフリーターだ。若い子のがええんかい。離婚寸前さ。小説家になるなどと夢のようなことを言いよつて。阿呆め。夢で飯が食えるか。

ただ、小説を書くのが愉しいことは悔しいかな認める。あたしも最近旦那に影響されサイトに投稿してる。旦那がPCを独占するのであたしはケータイ打ちだが時の経つのを忘れる。正直、旦那の小説

よりあたしの方がおもしろい。最近書いた「いきなりサバイバーっ！」なんて傑作だよ。むふふふふ。

警察がチャイムを鳴らした。

「むう。また夜鬼のやつか」

「ほかつとけ。あんなやつもう知らん」

旦那は無責任だ。

「おたくのお子さん、今回で七件目ですぞ。まるで学習能力がない強姦未遂件数だ。未遂が七回というのがちょっとおもしろい。夜鬼に聞くと、襲うまではいいが、いざ女のあれを見ると緊張して勃起せんらしいのだ。へなちょこめ。

とはいえ、中学で強姦とはなかなかワイルドで頼もしいやないか。とはいえ、犯罪は犯罪。仕方なしにあたしは警察へ行き、夜鬼を引き取りに行く。

帰り道。

「あんたはバカ過ぎる。なんで未遂やねん。最後までやらんかい。女子に失礼やろ」

「そこかよ。怒る場所間違ってるぜ。母さん」

「うるさい！」

あたしは夜鬼を投げ飛ばした。

もうくたくただ。しんどい。すっぱだかで街を走りたい。わけわからんこと叫びながら走りたい。

そんな夜鬼が今度は学校の窓を金属バットでぶち割り職員室に侵入しテストの解答を盗むという事件を起こした。

「ああん。もう！せつかくいい感じで小説書いてたのにめんどくさいやつめ！」

「ほかつとけ。ほかつとけ」

旦那をぶん投げた。

窓を突き破り落下。「うわああああああ」四階なので完全に骨折知るか。無責任親父は死ね。

あたしは警察から引き取ったあと、もうかんべんならんといい、夜

鬼を正座させた。

「お前はなんでそんなに悪なことばつかするんや！ええ？昔はそんな子やなかったやろ。訳を話せ。話さんと飯食わさん！」

夜鬼は涙をぼろぼろ流す。

「母さんが小説書き始めたからさ。少しでもネタになるといいなと思つて。ひつく。ひつく。オレ頭悪いからそれくらいしか、母さんに普段のお礼ができん。うう」

「夜鬼……」

あたしは両手を広げた。

「そんな優しいお前の気持ちもわからず、母ちゃんバカだったよ。ほら。おいで。抱きしめてあげる」

「うわーん。かあさーん」

飛び付いてきた夜鬼をあたしは持ち上げ、投げ飛ばした。

窓を突き破り落下。「うわああああああ」四階なので完全に骨折。知るか。阿呆め。世の中そんなボケが通用するほど甘くないわい。寝よう。寝よう。疲れた。明日五時から仕事やもん。

しばらくして、米太郎と夜鬼を運ぶためにやって来た救急車のサイレンが聞こえる。

「うるさくて眠れねえ！」

あたしはむかついて、外に飛び出し、救急車をハンマーでむちゃくちゃに叩き潰した。

「お、奥さん。二人とも死んじやいますよう」

救急隊員がわちゃわちゃしてる。野次馬が騒いでる。

「うるせえ！こんな阿呆どもは死ねばいいんだ！」

二人は倒れながら実は意識があつたが、あたしが怖いのか死んだふりしてる。

「くそボケい！」

あたしは旦那の腹を蹴飛ばし、夜鬼の尻を蹴飛ばした。苦痛に顔を歪めまだ死んだふりしてやがる。

「奥さん！落ち着いて！落ち着いて！」

あたしはおもしろくなってきたて再びシュートの体勢をとった。
気分は、キャプテン翼！ ルンルン♪♪

(後書き)

ジャンジャン！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3628/>

お母さん、ありがとう！！

2010年10月17日22時59分発行